

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止



# ぱん物語

# 2



**Presented By**

**Rorie-Go**

**In 2014 Winter**





……。



おい……忍。

なんじゃー  
お前様よ。

僕のベッドの  
上でドーナツ  
ほおぼるのは  
よせよ。

それと、その漫画。  
僕のお気に入る  
なの知ってる  
だろう。

ドーナツで  
ベトベトの  
手で触るん  
じゃないっ



細かいこと  
言うのおー  
えーじやろが。

コソツア  
何そんだ。

ネー？  
キエ使わな  
スーんじやろ

ワシぐらいの  
怪異なら  
分子レベルでの  
物質再構成が  
可能なことぐらい  
知っておろう。

読み終わったら  
漫画もベッドも  
新品にして  
やるわい。

なげ  
ー！

そーいうことを  
言ってんじやない。  
気分の問題だっ

さっさと  
手え洗って  
こいっ



やれやれ  
仕方ないのお。

4270



まったく  
幼女に厳しい  
わが主様じゃ。

.....



おっっ...  
忍っ

あー  
分かっておる。

ちゃんと  
石鹸使って  
ツメの間も  
丁寧にじゃろ

そいっ...いや

ちよつと...  
こっち来い。

なんじゃ。  
全くもう...  
勝手なわが  
主様じゃ

ちよっと  
スカート  
上げてみる

なんー？  
なんじやもう。

おまえ：  
絆創膏は  
どうした？

あーあれは  
もうやめじや。  
ワシもレディの  
嗜みというのを  
おぼえたからの  
最近はこちらと  
パンツというのを…

おおーっ？

いやー  
これはしたり  
履くの忘れて  
おったわ。

レディーが  
聞いてあき  
れるなあ…

いや…  
ところで  
わが主様よ。

なんー。  
なんだわが  
従僕よ

何をして  
おるのか  
のお…？

そいや…

そーいえば  
お前とやった  
ことなかった  
なーと思つて

これ…  
僕のチンポ  
入るかなあ…？



なんじゃ  
お前様よ。

わしみたいな  
未成熟な身体でも  
OKなのか。

真正正銘の  
真性じゃな。

いーだろーが  
やりたくなっちゃ  
ったんだから。



ほら  
パンサイしろ  
ばんざーい。



あー  
久しぶり  
だなあ

……

よーし  
じゃあやるか



ばんざーい

よーしよし  
いい子だー

「てかお前様、あのツンデレ娘はどうした。彼女じゃろ。」

お前様の性欲処理はしてくれんのか。」

「仕方ないだろ。ガハラさんまだHなことには抵抗あるんだってさ。トラウマがあるからな。」

「はあーっ？ナンっ…じゃ、それっ。」

彼女の意味ないじゃろ。人間の世界で言う彼女っていうのは好きな時にタダでやらせてくれるもんとちがうのか。」

「忍さん。どこで仕入れた知識か存じませんが。ソレ。間違ってますよ。」

「なるほど言葉が過ぎたの言い直そう。やらせてくれなきゃソレ彼女じゃないじゃん。ただの知り合いじゃろ。」

「やめろ。僕の大事な彼女だぞ。肉体関係が無くたって、僕らはちゃんと恋人同士だ。」

デートだってするし手だってつなぐぞ

この前なんか聞いて驚け。

二人つきりて映画館に入ったんだぞ。

もちろん並んで席に座り映画の後半は僕の右肩に頭をもたれかけてくれたんだ。」

「ひくわー。おまえら。中学いや小学生か。」

「いーだろうがっ。結構これで幸せなんだぞ。まあ、したいししたくないで言えばしたいに決まっているけどさ。」

「じゃあお前様。アツチの処理はどうしておったのじゃ。アレか。エロ本やネット動画でソロプレイか。」

「いやー。その…ぼくオナニーってしたことないんだよ。」

「は？ だってお前様よ。」

健康な男子なら精通を迎えるあたりでムズムズから自然な流れで覚えるもんと違うのか。」

「いや、ぼくオナニーとか覚える前に火憐ちゃんや月火ちゃんにヌイてもらってたから。」

「あー…。うーん。」

一応ワシもお前様とはリンクでつながっておるが…お前様のプライベートシーを尊重し深くのぞき見たことはなかつたのじゃが…あー。そーなんだー。」

「年寄り言葉はどうした。設定忘れんなよ。んー、そうだなあ。」

僕が小学校上がる前から妹たちとは裸でじゃれあうのは遊びの一つだったし、あたりまえの日常だったから。」

ん？ああ両親共働きで家にほとんどいないなかつたからさ。そこは普通に。」

精通なんか火憐ちゃんの口の中だぞ。ぼく。」

僕が火憐ちゃんのマンコ舐めてあげる代わりに

僕のチンポしやぶらせてさ。」

気持ちよくなつて出ちゃったんだ。」

んで月火ちゃんも『わたしもやるーっ』てなかんじで。」

「んじゃあれか。」

お前様は小学生でもう童貞喪失か妹たち相手に。」

「いや。」

お互い性知識がついてきたところでセックスしてみよかつたことで

試したんだけどどうもいかになくつてさ。」

まあ入んなくてもお互いこすりつけ合うだけでも

気持ちいいから。だから僕はまだ童貞だし火憐ちゃんも

月火ちゃんもまだ処女だぞ。」

それより月火ちゃんはギューっつと抱きしめてキスされる

のが好きだし火憐ちゃんは後ろから胸もまれながら  
おまんこいじるられるのが大好きだもんな。」

「聞いたらんわ。てかだったらその妹御達にまた処理  
頼めばよかろうが。」

「いやそれが最近二人とも彼氏ができたらしくつてさ。  
瑞鳥くんと蠟燭沢だっけか。それでまた今まで『兄妹  
ならコレがふつーだよ』ってウソ教えて僕の性欲処理  
をさせてたじゃん。それがみーんなバレちゃってさ。  
ぜんっぜんやらせてくれねーの。以前程だけど。」

「当たり前じゃ。  
てかよくその程度ですんどののお絶縁されんだけでも  
ありがたいことじゃ。家庭崩壊もせんとよくおぬしら。  
一つ屋根の下暮らしとるもんじゃ。」

「いやいや、一応二人してポッコポッコにシバかれたよ。  
それから一週間ぐらいは口も聞いてくれなかつたな。」

「だーかーらー。なんでその程度で済んでおるんじゃ。  
刃傷沙汰に発展してもおかしくないじゃろ。」

「あ、いや包丁は持ち出してきたよ。月火ちゃんが。  
まあ火憐ちゃんが止めてくれたけど。さすが空手家だ  
よなあ。」

「まあでもホントたまっちゃった時は、頼めば又いてく  
れるぞ。あの二人も基本、僕とエッチするの大好きだ  
からなあ。」

「なんていうかさー。妹御に関してはお前様と喋ってる  
とワシなんか頭おかしくなりそうじゃ。」

「あ。思い出した。ほら忍、早くベッド横になれよ。」

「ムードもなにもないのう。」

「お前様、欲望に躊躇無すぎじゃ。」

「まあ。お前様と契るのはワシとしては吝かではな  
いぞ。ワシは下僕でお前様が主じゃからな。  
身体を差し出せと言われて断る理由をわしは持ち合  
わせておらんしのう。」

「いや僕もそういう主従関係に物を言わせてという  
のは。まあ燃えるっていうか萌えるけどな。  
それはそれで。」

「お前様の性的嗜好に今更とやかくは言わんがの。  
しかしじゃ。お前様の童貞を奪えるというのはワシ  
としては結構、胸が高鳴る話じゃ。」

「高鳴りはするんだ、薄い胸だけど。」

「スレンダーと言え。お前様が妹御で性欲解消して  
た時とそんなに変わらんじゃろ。」

「確かにな。」

ん…

なっ…  
なあー忍。

も…もう  
いいだろ？  
これぐらいで

マンコの  
いじるの

む…  
そう…じゃな

よっ…よしっ  
じゃあ後ろ  
向いて  
後背位から…

なんじゃもー  
一応は僕も  
お前様とは  
初めてなん  
じゃぞ

最初くらい  
顔を見つめ合  
いながらとい  
うデリカシー  
はないのか？

ごご…  
ごめん…

あーもう  
いいわっ  
好きにせい

はい…



ん…

んあああー…

んんん…

うはあ  
すげえ  
すげー

これが  
マンコ  
ん中  
かあー

……

全くこの  
クソ童貞が

自分のこと  
でもういっ  
ぱいはい  
っぱいじゃ  
のお…

まあ  
なんだかんだで  
我が主様の  
『初めて』を  
戴けたわけじゃ  
からのう

あの  
ツンデレ娘に  
奪われる前で  
よかったわい

んー？  
どうした忍。  
平気かー!?

ん…  
大…丈夫じゃ

ぬちゅ  
ちゅ

よし忍  
ちよつと  
身体起こすぞ

後ろから  
抱っこしな  
がらしような

そっちの方が  
重たくなくて  
いいだろ

ん…

ほおー。  
なんじゃ  
少しは気を遣う  
余裕が出て  
きたか

んはあ

んはあ

ぬちゅ

ぬちゅ

アツ出る

ああ…

結構、結構。  
さすがは我が  
主様じゃ♥

おー  
出た出たー

また、  
たっぷりと  
出したのう

トロ〜

濃さも  
特濃じゃ

初潮前の  
女児でも妊娠  
しそうじゃわ

ト

ト

ホントに  
溜まって  
おったん  
じゃなあー

そお  
うのほ  
う。

忍  
じやあ  
今度は  
向き合  
つて  
しようか

まるで  
恋人同  
士の  
ようじゃ  
な♡

恋人同士って  
おまえなあー

なんじゃ。  
こういうコトは  
愛し合う者同士で  
やることでは  
ないのか？

まあ：  
そうなん  
だけとさ

ふふふ。  
まあ、お前様は  
性欲処理目的でも  
儂は儂なりに  
楽しんでおるのじゃ

細かいことは  
お互い言いつこ  
無しじゃ。

そう…だな

ちゅるるる…

ズニニ…



んう...

ああっあー

お前様よ  
さすがにちと  
やりすぎでは  
ないかのお...？

えーそうかあ？

あーよく考えたら  
僕いつも妹二人を  
いっぺんに相手に  
してたからな

幼女の体力  
じゃ少し  
シンドイかあ

しんどい  
どころじゃ  
ないわい

忍、あの…  
もう一回…  
いいか…？

なんじゃ  
まーだやる  
気なのか？

全く  
こういう時の  
体力だけは  
底なしじやの

いや別に  
構わんが少し  
休憩をはさんで  
再開させてくれ  
我が主様よ

あーもう  
仕方ない  
のおー…

おーい。  
おまえ少し  
相手してやれ

！

はあーい…

ズッ…ズッ…ズッ…

ひあっ!?



おい  
自己紹介せい。

は…。

あの…  
初めまして。

忍・改と  
申します。

近所のミスドが  
経営合理化の  
あおりで深夜営業を  
止めてしまった  
のでなあ…

俺の就寝中  
ドーナツの  
買い出しのみに  
特化した俺の  
分身じゃ

コホン

なるほど…  
最近、僕の財布に  
覚えのない  
ミスドのレシートが  
入っていたが…

うむ。  
少々拝借させて  
もらっておた。

おいっ

お前様  
遠慮無く  
やっちゃって  
いいぞ

ホントか？  
よーし

情けない声  
出すでないわ

ん  
忍様あゝ…

折角じゃ  
存分に可愛がって  
貰うとよいぞ

そうそう。  
我が主様に  
粗相の無い  
様にな

はい…  
忍様…

あやかし

あーそうじゃ  
お前様よ

そやつ  
農と違って  
体力は正真正銘の  
幼児並じゃから  
な

あんまり  
無茶せん様  
に

聞いて  
おらんか

うぐうー

ボコッ

はあぐうあー



苦…しい

重…い

くる…し

あ…の

あ…

ぬ…ほ…お



あーごめん  
ごめーん

つい夢中に  
なっちゃったよ



ぬっ  
おっ

ぬっ  
おっ

おーい  
お前様よー

折角だから  
儂も混ぜて  
くれんかのー  
んんん

んー？  
ああー  
いいぜー

お前様よ

なんー？  
なんだー  
忍。

こやつやっぱり  
性欲だけの  
タダのクズかも  
しれんのー！

そろそろ  
やめんかあ：  
今日の所は？

もう  
ズタボロ  
じゃぞ。  
下の奴は。

そんー  
そうだなあ

もう：  
ちよつと  
だけ：

あーあ：  
まったく  
エライ奴を  
主に持って  
しもうたわい

まあ：  
よいかの。  
これはこれで♡

この文章書いてる時点で×切30分前。  
おまけに細かい所まだ。  
今回はもうほとんどあきらめていたので  
よくここまできたなあ。  
おかげで初めて三倍界王拳使う羽目に陥った。  
財布も体力もスッカラカンです。

まだもうちょっと粘ります。

皆さん良いお年を。

2014年冬  
浮城高雄



この原稿にとりかかってしばらくして  
レーベ君をお迎えできました。  
始めたのが去年の今頃だからほぼ一年か。  
まだレベル85の少将です。

この原稿終えたら、また育てはじめようかな。

発行 ろり絵号  
編集・構成 冴樹高雄  
発行日 2014年12月30日  
印刷 プリントマウス様

kibatora@gmail.com  
<http://kibatora.web.fc2.com/>